

鉄筋工事配筋要領書

(平成21年版)

社団法人 全国鉄筋工事業協会

はじめに

昭和60年に初版を発行、平成5年の第1回及び平成12年に第2回改訂版として発行された「配筋要領書」については、数多くの方々のご支持を得て鉄筋工事に従事する方々や関連のある方々に活用されてきましたが、この度、「平成21年版」として改訂発行されることとなりました。

初版発行以来、世の中の動きに伴い仕様書として指導的役割を担ってきた、(社)日本建築学会の標準仕様書、国土交通省大臣官房官庁営繕部の共通仕様書等についても、数々の改訂を経て現代の建設事情及び技術革新などに対応してきています。

一方、施工を担う鉄筋業界としても、数々の改訂に対応しつつ最前線の工事現場にて今日の趨勢でもある「一品料理のような様々な仕様書」に敢然と挑戦して参りました。とはいえ、施主、設計事務所及び総合建設業者、そして専門工事業者の位置付けに大きな変化はないものの、最前線である実際の現場では従来のような位置付けは望むべくもない状況に立ち至っています。

「現場が枯れる」という言葉も聞こえてきます。鉄筋工事を専門とする鉄筋工事業者としても、様々な仕様に対応していく必要に迫られております。この状況は、施主、設計に特に監理に携わる方々、総合建設業者の現場担当の方々についても同様です。現場において「技術」と「技能」がうまくかみ合う、それなくして鉄筋工事での現場の再生はありません。

「平成21年版配筋要領書」は完全なものではありません。施主、設計に特に監理に携わる方々、総合建設業者の現場担当の方々多くの方々と鉄筋工事に従事するものが、現場においてたたき台として手にとってお互いに活用することにより、施工そのものはもとより、「平成21年版配筋要領書」の将来の改訂への糧となることが期待できます。

多くの方々の活用を切望しております。

平成21年5月

社団法人 全国鉄筋工事業協会
会長 内山 聖

「平成21年版配筋要領書」改訂にあたって

ここ数年来「配筋要領書の改訂」が議題に上っていましたが、なかなか手をつけられなかった、正直な実感です。異なった仕様・理論をどのように紙面に反映するか、結局は、並記することにして改訂作業が始まっていきました。

仕様書の統一化、共通化を目標にしてきた環境がにわかになり、「共通仕様書」の名称も消えて、「標準仕様書」と呼ばれるようになり、目標が反対の方向にすすんでいる状況にあります。仮に技術の進歩や建設産業の環境の変化による前進と捉えることが出来ましたが、残念であります。

さて、平成17年11月の耐震偽装事件以来、「鉄筋工事」が悪い意味で認知度が向上、社会的問題としての圧迫感のなかで、工事に携わる者全てが信頼回復と確保に今もって振り回されている状況にあります。最前線の現場での閉塞感もまた将来への建設産業を占う上での課題として表面化してきております。

しかし、鉄筋工事の原理・原則は大都市であろうと地方であろうと変わっていません。時代の要求は「技術」と「技能」がほどよくかみ合っている良いものを社会に提供することです。仕様書の多極化は現場を悩ますものですがしっかりと対応出来るように確実に前進していかなければなりません。

「平成21年版配筋要領書」をここに発行します。手に取った方々が活用され、多くのご指摘や、もちろん間違いも、そして新しい発見や改善を経験し、それらをぜひ我々に届けて頂き次の改訂に反映する、そんな期待を強く持っております。

最後に初版より携わって頂いた諸先輩の方々の労苦にお礼申し上げるとともに膨大な参考文献をとりまとめ、ここまで至らしめた委員各位に衷心より感謝致します。

平成21年5月

社団法人 全国鉄筋工事業協会
技術・教育訓練委員会
委員長 館 岡 正 一

「平成21年版配筋要領書」改訂委員会
(技術・教育訓練委員会：技術分科会)

熊 谷 誠 一 (北海道)
坂 田 護 (東鉄協)
新 妻 尚 祐 (東鉄協)
館 岡 正 一 (東鉄協)
高 橋 英 雄 (神奈川)
神 田 幸 夫 (新 潟)
飯 島 勉 (愛 知)
井手口 勉 (佐 賀)

鉄筋工事配筋要領書（平成21年版）

目 次

1 章 共通事項	1
§ 1. 1 鉄筋の種類及び記号	1
§ 1. 2 鉄筋の継手及び定着長さ	3
§ 1. 3 鉄筋のかぶり厚さ	12
§ 1. 4 鉄筋のあき・間隔	15
§ 1. 5 鉄筋の折曲基準・加工	18
2 章 基礎	23
§ 2. 1 基礎の分類	23
§ 2. 2 基礎のかぶり厚さ例	26
§ 2. 3 独立基礎の配筋例	27
§ 2. 4 布基礎（連続基礎）	43
§ 2. 5 べた基礎（耐圧スラブ）	48
3 章 基礎梁	55
§ 3. 1 基礎梁の継手及び定着方法	55
§ 3. 2 基礎梁のかぶり厚さ	83
§ 3. 3 スタラップの形状・配筋	90
§ 3. 4 基礎梁組立て用架台	101
4 章 柱	107
§ 4. 1 柱筋の配筋と名称	107
§ 4. 2 柱のかぶり厚さ	111
§ 4. 3 柱筋の定着と納まり	113
§ 4. 4 柱筋の絞り	119
§ 4. 5 斜め柱	121
§ 4. 6 柱筋の継手の位置	122
§ 4. 7 柱筋末端、先端フックの解釈	124
§ 4. 8 帯筋	125
§ 4. 9 柱筋の組立て順序	134
5 章 梁	139
§ 5. 1 大梁	139
§ 5. 2 大梁筋の継手位置	140
§ 5. 3 大梁筋の定着	144
§ 5. 4 小梁・片持梁	157
§ 5. 5 あばら筋（スタラップ）・腹筋・幅止め筋	163
§ 5. 6 梁筋の組立て順序	175

6 章	壁	177
§ 6. 1	壁一般	177
§ 6. 2	一般壁の配筋	178
§ 6. 3	一般壁の継手	183
§ 6. 4	一般壁の定着	186
§ 6. 5	地下外壁の配筋	194
§ 6. 6	壁筋の配筋順序	196
§ 6. 7	壁開口部の補強	200
§ 6. 8	構造スリット・誘発目地のある配筋	202
§ 6. 9	壁筋の周辺鉄骨への定着方法	204
7 章	スラブ	207
§ 7. 1	スラブ一般	207
§ 7. 2	一般スラブの配筋	208
§ 7. 3	スラブ筋の継手	213
§ 7. 4	スラブ筋の定着	216
§ 7. 5	片持スラブの配筋	222
§ 7. 6	スラブ筋の内外関係	228
§ 7. 7	スラブの各種補強	229
§ 7. 8	スラブ筋の周辺鉄骨への定着方法	236
§ 7. 9	鉄筋格子を用いたスラブ配筋	238
§ 7. 10	土間スラブ	239
8 章	階段	241
§ 8. 1	片持ち階段	241
§ 8. 2	スラブ階段	247
9 章	参考資料	257
§ 9. 1	建築工事標準仕様書（日本建築学会）JASS 5 について	257
§ 9. 2	異形棒鋼のロールマーク	260
§ 9. 3	電炉鉄筋メーカーの機械式継手の現状	262
§ 9. 4	新しい継手管理技士制度の発足	263